

# 赤ひげ先生 奮闘記!

vol.2

福岡市的那珂川病院にて、フットケア外来を立ち上げた竹内一馬先生。患者さんの“足の健康”のために精力的に活動する姿をご紹介します。

**足のトラブルを解決し  
健やかな毎日を支える**

「心臓血管外科で治療を行う中で、糖尿病などによる末梢血管のトラブルで足が壊疽した患者さんが、処置の遅れから足の切断を迫られる現実直面しました。歩行の自由が奪われると、多くの患者さんはさらに病気が悪化していくのです」と話す竹内先生。足は第二の心臓。足に疾患があると血流が悪くなり、心臓に負担がかかります。

フットケア外来を周知させ  
足の悩みを抱える患者さんの  
心身の健康をサポートしたい!

## PROFILE

那珂川病院血管外科部長

竹内 一馬先生

たけうち・かずま 1997年福岡大学医学部医学科卒業。福岡大学医学部心臓血管外科助教、静岡市立静岡病院心臓血管外科、福岡大学医学部心臓血管外科講師・医局長を経て、11年より現職。日本循環器学会、下肢救済・足病学会、日本フットケア学会などに所属。



右：巻き爪の矯正ワイヤーに、赤いビーズのプレゼント。「うれしそうにずっと眺めていました」と80代女性患者さんのご家族。左：義肢装具士さん（左から2番目）や看護師さんと協力。多い時は足の患者さんを週に80人診察（他院含む）。

## Private column プライベートコラム



### オーケストラの中でも 演奏に、広報にと奮闘

中学2年生から吹奏楽部でフルートを演奏。年1回、フルート奏者約200人で演奏するオーケストラコンサート「日本フルートフェスティバル in 福岡」に出演しています。大学生の頃から参加し、今年でもう18回目。広報部長を務め、新聞に告知を出したり、実行委員と曲を決めたりと活躍しています。

■NPO法人「足もと健康サポートねっと」  
<http://ashimotokenko.com/>

足の健康の大切さを実感した竹内先生が新しく院内に立ち上げたのが、足のトラブル全般を診るフットケア外来でした。巻き爪や外反母趾による変形から糖尿病による壊疽まで、診察は広い範囲に及びます。現状では足を専門に治療できる施設が少なく、足の症状を訴えても、足に触れることもなく、疾患の診察が進むこともありま

す。フットケア外来では1人ひとりの素足に触れて診察。定期的

に爪や足裏の角質ケア、必要に応じて靴や中敷のオーダーメイド、歩き方の指導も行います。

「糖尿病による壊疽は、足を診るにより早期に発見でき、適切な治療を行えば、足の切断を回避できる患者さんがたくさんいます。ここでは無菌ウジに壊疽した部分を取り除かせるマゴット療法などの専門的な治療によって、切断の範囲を最小限に食い止められるようにしています」。

体の土台となる足の健康を支え、多くの人を支えている竹内先生。患者さんには「ここまで丁寧な、足をじっくり診てもらえるなんて」と喜ばれています。

### 足にかかわるプロとの つながりを深める

診察を続ける中で、「靴屋や角質ケアなどを行うフットケアサロンなど、足のプロたちと力を合わせたら、もっと多くの人を助けられる」と考え、竹内先生自ら関係者にアプローチ。この連携により、足の悩みを抱える人をサポートするNPO法人「足もと健康サポートねっと」が生まれました。竹内先生は代表として、相談会や歩行指導を行う体験型のイベントを開催。多くの人が足の健康について考えるきっかけを積極的につくっています。



足に直接触れて診察。この間、息子と話すように楽しげに竹内先生と会話する高齢の患者さんが多い。